

目的: 近年インテリアへの関心は急速に高まり、住まいの外観と同様に室内意匠も多様化が著しい。多様な意匠決定の背景をみると、“機能”では包含しきれない様々なファクターが絡んでいるように推察される。このファクターとは何なのかを明らかにすることは、今後の住宅意匠のゆくえを展望するうえで重要な課題だといえる。こういった視点から本研究では、室内意匠の多様化の背景をまず居住者の社会心理的側面に着目して分析・考察することを目的としている。本報告では、特にリビングルームに着目して、意匠の諸類型を抽出し、それらと居住者属性との関係について整理したい。

方法: 研究は2つの方法で行った。①住まいの設計など雑誌6種の1989年7～9月号を中心とする計11冊をもとに、近年実際に建築された住まいの事例を140例収集し、リビングルームの写真やインテリアエレメントに関する情報などを収集整理した。②京都市桂坂、池田市伏尾台において実態調査を行い、リビングルームの図面採取、写真撮影、インテリアエレメントのチェック、居住者属性のヒアリング等を行った。対象戸数は71戸、調査時期は、1989年11月である。

結果: リビングルームの家具、敷物、ウインド・トリートメント、照明、内装材などの諸要素は、イス・ソファ類の素材と様式を基準にすると、①布張モダン、②革張モダン、③クラシック、④イス・ソファなし、以上の4つに大別できる。この類型と、延床面積・居間面積などの住宅属性や、年収・職業・趣味・衣食生活への指向などの居住者属性には対応関係がみられる。この結果からリビングルームの室内意匠は、居住者のステータスやライフスタイルを人々に向けて表示するシンボリック役割を果たしているのではないかと推察される。